

2023年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500187	事業の開始年月日	2016年4月1日	
		指定年月日	2022年4月1日	
法人名	株式会社 三協宮城			
事業所名	グループホーム あったかいごふるかわ ユニット名：せせらぎ			
所在地	(〒 989-6162) 宮城県大崎市古川駅前大通6-3-8			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2024年1月28日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で以前のような地域との交流が思うように出来ていませんが、施設内で季節を感じてもらえる飾りつけや行事を企画し楽しんでもらえるよう取り組んでいます。また、自分のやりたいことが好きなようにできるよう個人の生活歴を重要視し好きな場所で好きなように過ごせる工夫も行っています。

訪問医師、訪問看護、訪問歯科による定期的な訪問で、利用者様の健康管理や早期発見ができるよう24時間体制で連絡がつく体制を整えています。定期的な血液検査などを通じてご家族様と医師とで面談も行い、本人・家族が安心して暮らせる施設作りに努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年2月14日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

「地域と共に 笑顔の中で その人らしく」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

株式会社三協宮城が母体法人で本社は岩手県盛岡市にある。「グループホームあったかいごふるかわ」は2016年4月から事業を開始している。ホームは平屋造りの2ユニット（せせらぎ、そよかぜ）で古川駅から近く、公共施設や店舗など立ち並ぶ市街地の中にある。

【事業所の優れている点・工夫点】

職員は理念を常に念頭におき、四季折々季節を感じられるレクリエーションなどの行事を企画したり、入居者が日々の暮らしの中で笑顔で過ごせるよう支援している。入居者の健康管理については、訪問医師、訪問看護師、訪問歯科医の定期的な訪問がある。歯科衛生士も週1回訪問し口腔ケアを行っている。また、訪問看護ステーションとは24時間オンコールで連絡がとれる体制になっているなど、医療面の連携対応が整えられている。定期的に医師との面談も設けられ、家族の安心に繋がっている。子育てしながらでも働きやすいよう職場環境に配慮し、長年勤務するベテラン職員が多い。研修や資格取得時の支援もある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

事業所名	グループホームあったかいごふるかわ
ユニット名	せせらぎ

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごふるかわ）「ユニット名：せせらぎ」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所に掲示し、意識するよう心掛けている。全体会議時にも確認を行っている。	事業所の理念を月1回行う全体会議の前に唱和している。また、常に職員が確認しやすいところに掲示し、職員は理念を念頭に入居者がその人らしく笑顔で生活できるよう日々のケアや声かけを行っている。運営推進会議の議案書にも毎回掲載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、新型コロナの影響でまだ地域交流を中止している。	町内会に加入しており回覧板で地域の情報を得ている。コロナ禍前は町内会の新年会や敬老会にも招待され交流していた。今後は感染状況を確認しながら、以前のように地域との関りを持ちたいと検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い、施設での認知症に対する仕組み等理解していただけるよう伝えている。地域包括からの依頼で認知症カフェにも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での日常や行事の様子、事故報告等行っている。また、施設での取り組みや研修などの報告も行っている。	運営推進会議のメンバーは町内会長、区長、民生委員、婦人会代表、地域包括職員、訪問看護師等で年6回奇数月に開催している。入居者の状況、行事報告などを行っている。議案書とともに事業所ニュースの「おあしす新聞」を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議にて報告している。また、生活保護の利用者の情報や、北部保健福祉事務所高齢者支援班に3か月に1回入所状況を報告している。	地域包括職員が運営推進会議のメンバーなので連携がとれている。市の保護課には区分変更など毎月報告に出向いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会や研修にて身体拘束によって利用者が受ける弊害について勉強し、拘束のないケアの工夫を行っている。	3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催している。「身体拘束適正化に関する指針」の確認や、ユニットごとに事例を挙げ話し合い、身体拘束に繋がらないよう取り組んでいる。外出傾向のある入居者には職員と一緒に散歩したり、ベンチで休んで気分転換をしている。玄関は大きな道路に面しているため防犯上施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を行っている。不適切な言葉使いや不適切なケア等虐待発生の前兆となるような行動を注意できるよう周知徹底している。	身体拘束適正化委員会と一緒に高齢者虐待防止の研修を行っている。管理者は、職員の普段の声がけの仕方や声のトーン等、気になる時はその場で指摘している。また、ユニットリーダーと検討し、全体会議で話し合い共通理解に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修は行っていないが、推進会議メンバーの地域包括の方に相談できる環境がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に家族へ説明を行っている。契約時にも十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、ご家族様の来所持はコミュニケーションを図り、思いを汲み取る様になっている。	家族向けのお便りを写真と一緒に送付している。主に面会時や電話で家族の意見や要望を聞いている。利用料金の明細や入居者が使っている物品の購入についての相談などがあり、説明している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や年に2回職員面談を行い、意見を聞く機会を設けており、その内容は上役が参加する会議でも報告している。	毎月の全体会議やユニット会議では各ユニットのリーダーが職員の意見を集約している。法人の役員も参加する事業所の管理者会議で報告し運営に活かしている。また、年2回の面談でも意見、要望を聞いている。研修時には出勤扱いにしたり、助成金があるなど、資格支援制度を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所より職員個々の評価、報告し見直しを行っている。職員一人一人が目標を設定し業務を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、主任、管理職等、段階的な研修があり、積極的に研修に参加するよう法人の方向性がある。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルスの影響で外部との交流の機会が減っている。	コロナ禍で外部との交流はないが、毎月法人内の4事業所合同での会議を行っている。宮城県認知症グループホーム協議会からは研修の案内などがある。また、協議会の「コロナネットワーク」では、事業所同士で応援要請ができる取り組みがある。訪問看護師によるケアの助言や看取りについて話があった。	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から本人、家族とコミュニケーションを十分に取っている。どのような生活を望まれるか把握し職員間で情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や質問があった際は職員間で共有し、誰もが返答できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にグループホームに入所することが現在の段階で適切かどうか適切かどうかを話し合い、より適切なケアが提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であり、常に一方的にならず楽しいこと、悲しいことを共有できるようにしている。手伝いを行って頂いた際は必ず感謝の言葉を口にするよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌や家族が不足品を持って来所されたときに普段の様子を伝え、どのようなケアがより適切かを聞き出すようにし、関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はあるものの、利用者様がこれまで大切にされてきた関係が途切れないように、友人や近所の方が訪ねてきた時も面会ができるよう支援している。	感染症予防対策のため面会は原則家族のみだが、友人の訪問時には家族に確認して玄関先で会えるようにしている。家族の了解を得ながら、手紙や電話の取次ぎの支援も行っている。家族との通院時に外食を楽しむ入居者もいる。訪問理・美容を利用している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に目を向け、認知症状や性格的なことでコミュニケーションが取りにくい方には職員が介入し、席順等、利用者同士が関われるような環境整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて相談があれば話ができる環境は整えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動から本人の想いを汲み取るように努めている。要望の多いものを優先に検討し、ケアに努めている。	日々の会話や表情、家族からの聞き取りで思いを把握するように努めている。把握が困難な入居者からは、以前の生活歴や何気ない仕草、表情から汲み取るよう努めている。家事や畑仕事をしてきた入居者も多く、事業所でも日々の役割を持ちたいという要望があり、応えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中でこれまでの生活環境を把握し、可能な限り今までの生活習慣が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事量、排泄量を生活記録に記入している。小さな変化や気づきがあれば申し送りで都度共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをしていく中で課題があった場合には家族や関係者に報告し話し合いをし、現状に即した介護計画になるようにしている。	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しを半年に1回行っている。居室担当者が意見を出したり、医師からも助言をもらい、計画作成担当者が作成している。家族には電話で説明し確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌、申し送りにて職員間で情報の共有をし、ケアの見直しに活かすようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応できるように努めている。関連業者の活用を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響によりボランティアの参加、地域行事への参加はないが、訪問理美容によるヘアカットを行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時に本人及び、家族の希望を聞いており、家族協力のもと、受診対応も行っている。ほぼ全員の利用者が訪問診療を受けられている。	入居時に本人と家族にかかりつけ医についての希望を聞いている。現在は訪問診療を受けている入居者が多い。家族による通院時には事業所から情報を提供している。訪問看護ステーションと契約し、週2回の訪問と24時間支援体制がとられている。訪問歯科、訪問歯科衛生士が口腔ケアを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来て見ていただいている。夜間や休日でも緊急時は訪問していただける体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関には利用者の状態について、情報を提供している。また、入院の際は電話連絡等で家族から現状や今後について話を聞いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際や重度化した際は家族に説明している。時には往診医から家族報告してもらうこともある。	「重度化した場合の対応に係る指針」を入居時に家族に説明している。食事が摂れなくなった時に医師から家族に説明している。終末期には家族は毎日でも面会することができ『看取りは事業所で』という家族が多い。看護師が職員に看取りの段階の説明をし、看取り後は振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをもとに職員が行動できるように対応している。事務所にAEDを設置している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年2回避難訓練を行っている。事務所には防災無線受信機を設置している。水害については避難場所の確保に努めている。	年2回避難訓練を行っている。事務所に市の防災無線受信機が設置されており緊急時には連絡が入る。水害時に備え、隣の建物の2階への垂直避難を想定している。年3回業者が設備点検に来ている。備蓄は食料などを3日分保管しておりローリングストックを実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人人格のや個性を職員が把握し、呼び方や言葉使いに注意し本人を尊重する対応をしている。	接遇、プライバシーの研修を行い理解を深めている。呼び名は、苗字か名前に「さん」を付けている。居室に入る時は、ノックを確認してから入室している。言葉遣いや声がけに注意し、周りに配慮して小声で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、自己決定ができるように声掛けし、選択肢を活用した会話を実践している。入浴時の衣類を決めてもらって言う		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の7ペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネックレスや腕時計など利用者の好むものを自由に身に付けてもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の好みを生活歴や本人に確認をしながら本人の望む形で提供できるよう努めている。また、行事やレクなどで好きな物が食べられるように意見を反映できるよう工夫している。出来る方には食器拭きなど一緒に後片付けをしている。	メインのメニューに対応した食材が業者から届くようになっている。ごはん、みそ汁、おかず1品は職員が手作りし、メインのおかずと組み合わせて提供している。入居者の状態に合わせ、刻みやとろみ等に職員がアレンジして対応している。誕生日には本人の好きなメニューや手作りのケーキでお祝いしている。入居者は野菜の皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなど、できることを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決められた献立とカロリー計算により栄養バランスが取れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。一人一人の状態に合わせた口腔ケアを支援している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。失禁が多いからおむつにかえるのではなく、トイレ誘導回数を増やし対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう定期的に声がけや誘導をしている。夜間にはポータブルトイレやセンサー、大きめのパッドを使用するなど、睡眠を妨げないよう工夫している。便秘対策としては水分量などを訪問看護師に相談したり、医師の処方する薬を服用する人もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後トイレ誘導を行ったり、水分を摂っていただくようにしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めずに対応、本人の希望に合わせているが週2回以上は入浴できるように配慮している。	基本は週2回の入浴で湯はその都度換えている。入浴剤を使用し楽しんだり、湯加減等は本人の好みに合わせている。入りたくない人には、無理強いせず時間をおいて声かけの仕方を工夫するなど、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせ、自由に休息をとっていただいている。テレビをつけたまま休みたい方もおり希望に応じた対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用については理解しているが、副作用までは十分に理解できていない。服薬に関してはここに合わせた介助を行っている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった支援を行っている。洗濯物たたみや唄、塗り絵、季節の飾り等一緒に行ったり、天気の良い日は外気浴を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、買い物、町内会の行事の参加はしていない。家族にも協力してもらいながら希望があれば個別で対応している。	事業所が所有する福祉車両を使って車いすの人も一緒にドライブを楽しんでいる。家族との通院時にドライブを楽しむ入居者もいる。また、暖かい日には事業所の玄関前のベンチに座って花壇の花を眺めながらコーヒーを飲んだりして楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者トラブルになりかけたこともあり、家族には説明し管理を家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話やスマートフォンを持っている方もいる。自由に家族や友人に電話している。手紙のやり取りは受け取りがメインなので本人にお渡しをしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるため、掲示物は毎月＊一部の利用者に手伝ってもらいながら、作り変えている。空調や換気に気を付け居心地のよい空間作りを楽しんでいる。	小上がりもあり、入居者が好きな場所でくつろげるようにしている。共用空間には職員と一緒に手作りした季節の飾り付けや、入居者の習字などの作品が飾られている。温・湿度管理、換気は職員が行っている。テーブルの配置は、入居者がゆっくり過ごせるよう動線に配慮しながら工夫している。トイレの表示を見当識に配慮しわかりやすくしたり、居室のドアには名前と作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性にも注意し、いつも一人一人が快適に過ごせるように席替えやテーブル配置に気を配っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、なじみの品々を身近に置くことにより、落ち着いた毎日を過ごしていただいている。	ベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが設置されている。入居者は自宅からタンスやテレビ等持ち込み、壁には写真や手作りの作品が飾られている。居室担当者は衣替え、シーツ交換などを手伝っている。温・湿度、換気は1日2回行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境を利用者の身体状況に合わせている。居室やトイレには迷わないように名前を掲示している。廊下やリビングに不要な物を行いようにしている		

2023年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500187	事業の開始年月日	2016年4月1日		
		指定年月日	2022年4月1日		
法人名	株式会社 三協宮城				
事業所名	グループホーム あったかいごふるかわ ユニット名：そよかぜ				
所在地	(〒 989-6162) 宮城県大崎市古川駅前大通6-3-8				
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計		18 名	
		ユニット数		2	
自己評価作成日	2024年1月28日	評価結果 市町村受理日			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で以前のような地域との交流が思うように出来ていませんが、施設内で季節を感じてもらえる飾りつけや行事を企画し楽しんでもらえるよう取り組んでいます。また、自分のやりたいことが好きなようにできるよう個人の生活歴を重要視し好きな場所で好きなように過ごせる工夫も行っています。訪問医師、訪問看護、訪問歯科による定期的な訪問で、利用者様の健康管理や早期発見ができるよう24時間体制で連絡がつく体制を整えています。定期的な血液検査などを通じてご家族様と医師とで面談も行い、本人・家族が安心して暮らせる施設作りに努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年2月14日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

「地域と共に 笑顔の中で その人らしく」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

株式会社三協宮城が母体法人で本社は岩手県盛岡市にある。「グループホームあったかいごふるかわ」は2016年4月から事業を開始している。ホームは平屋造りの2ユニット（せせらぎ、そよかぜ）で古川駅から近く、公共施設や店舗など立ち並ぶ市街地の中にある。

【事業所の優れている点・工夫点】

職員は理念を常に念頭におき、四季折々季節を感じられるレクリエーションなどの行事を企画したり、入居者が日々の暮らしの中で笑顔で過ごせるよう支援している。入居者の健康管理については、訪問医師、訪問看護師、訪問歯科医の定期的な訪問がある。歯科衛生士も週1回訪問し口腔ケアを行っている。また、訪問看護ステーションとは24時間オンコールで連絡がとれる体制になっているなど、医療面の連携対応が整えられている。定期的に医師との面談も設けられ、家族の安心に繋がっている。子育てしながらでも働きやすいよう職場環境に配慮し、長年勤務するベテラン職員が多い。研修や資格取得時の支援もある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

事業所名	グループホームあったかいごふるかわ
ユニット名	そよかぜ

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごふるかわ）「ユニット名:そよかぜ」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所に掲示し、意識するよう心掛けている。全体会議時にも確認を行っている。	事業所の理念を月1回行う全体会議の前に唱和している。また、常に職員が確認しやすいところに掲示し、職員は理念を念頭に入居者がその人らしく笑顔で生活できるよう日々のケアや声かけを行っている。運営推進会議の議案書にも毎回掲載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、新型コロナの影響でまだ地域交流を中止している。	町内会に加入しており回覧板で地域の情報を得ている。コロナ禍前は町内会の新年会や敬老会にも招待され交流していた。今後は感染状況を確認しながら、以前のように地域との関りを持ちたいと検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い、施設での認知症に対する取り組み等理解していただけるよう伝えている。地域包括からの依頼で認知症カフェにも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での日常や行事の様子、事故報告等行っている。また、施設での取り組みや研修などの報告も行っている。	運営推進会議のメンバーは町内会長、区長、民生委員、婦人会代表、地域包括職員、訪問看護師等で年6回奇数月に開催している。入居者の状況、行事報告などを行っている。議案書とともに事業所ニュースの「おあしす新聞」を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議にて報告している。また、生活保護の利用者の情報や、北部保健福祉事務所高齢者支援班に3か月に1回入所状況を報告している。	地域包括職員が運営推進会議のメンバーなので連携がとれている。市の保護課には区分変更など毎月報告に出向いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会や研修にて身体拘束によって利用者が受ける弊害について勉強し、拘束のないケアの工夫を行っている。	3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催している。「身体拘束適正化に関する指針」の確認や、ユニットごとに事例を挙げ話し合い、身体拘束に繋がらないよう取り組んでいる。外出傾向のある入居者には職員と一緒に散歩したり、ベンチで休んで気分転換をしている。玄関は大きな道路に面しているため防犯上施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を行っている。不適切な言葉使いや不適切なケア等虐待発生の前兆となるような行動を注意できるよう周知徹底している。	身体拘束適正化委員会と一緒に高齢者虐待防止の研修を行っている。管理者は、職員の普段の声がけの仕方や声のトーン等、気になる時はその場で指摘している。また、ユニットリーダーと検討し、全体会議で話し合い共通理解に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修は行っていないが、推進会議メンバーの地域包括の方に相談できる環境がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に家族へ説明を行っている。契約時にも十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、ご家族様の来所持はコミュニケーションを図り、思いを汲み取る様にしている。	家族向けのお便りを写真と一緒に送付している。主に面会時や電話で家族の意見や要望を聞いている。利用料金の明細や入居者が使っている物品の購入についての相談などがあり、説明している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や年に2回職員面談を行い、意見を聞く機会を設けており、その内容は上役が参加する会議でも報告している。	毎月の全体会議やユニット会議では各ユニットのリーダーが職員の意見を集約している。法人の役員も参加する事業所の管理者会議で報告し運営に活かしている。また、年2回の面談でも意見、要望を聞いている。研修時には出勤扱いにしたり、助成金があるなど、資格支援制度を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所より職員個々の評価、報告し見直しを行っている。 職員一人一人が目標を設定し業務を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、主任、管理職等、段階的な研修があり、積極的に研修に参加するよう法人の方向性がある。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルスの影響で外部との交流の機会が減っている。	コロナ禍で外部との交流はないが、毎月法人内の4事業所合同での会議を行っている。宮城県認知症グループホーム協議会からは研修の案内などがある。また、協議会の「コロナネットワーク」では、事業所同士で応援要請ができる取り組みがある。訪問看護師によるケアの助言や看取りについて話があった。	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から本人、家族とコミュニケーションを十分に取っている。どのような生活を望まれるか把握し職員間で情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や質問があった際は職員間で共有し、誰もが返答できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にグループホームに入所することが現在の段階で適切かどうか適切かどうかを話し合い、より適切なケアが提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であり、常に一方的にならず楽しいこと、悲しいことを共有できるようにしている。手伝いを行って頂いた際は必ず感謝の言葉を口にするよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌や家族が不足品を持って来所されたときに普段の様子を伝え、どのようなケアがより適切かを聞き出すようにし、関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はあるものの、利用者様がこれまで大切にされてきた関係が途切れないように、友人や近所の方が訪ねてきた時も面会ができるよう支援している。	感染症予防対策のため面会は原則家族のみだが、友人の訪問時には家族に確認して玄関先で会えるようにしている。家族の了解を得ながら、手紙や電話の取次ぎの支援も行っている。家族との通院時に外食を楽しむ入居者もいる。訪問理・美容を利用している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に目を向け、認知症状や性格的なことでコミュニケーションが取りにくい方には職員が介入し、席順等、利用者同士が関われるような環境整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて相談があれば話ができる環境は整えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動から本人の想いを汲み取るように努めている。要望の多いものを優先に検討し、ケアに努めている。	日々の会話や表情、家族からの聞き取りで思いを把握するように努めている。把握が困難な入居者からは、以前の生活歴や何気ない仕草、表情から汲み取るよう努めている。家事や畑仕事をしてきた入居者も多く、事業所でも日々の役割を持ちたいという要望があり、応えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中でこれまでの生活環境を把握し、可能な限り今までの生活習慣が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事量、排泄量を生活記録に記入している。小さな変化や気づきがあれば申し送りで都度共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをしていく中で課題があった場合には家族や関係者に報告し話し合いをし、現状に即した介護計画になるようにしている。	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しを半年に1回行っている。居室担当者が意見を出したり、医師からも助言をもらい、計画作成担当者が作成している。家族には電話で説明し確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌、申し送りにて職員間で情報の共有をし、ケアの見直しに活かすようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応できるように努めている。関連業者の活用を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響によりボランティアの参加、地域行事への参加はないが、訪問理美容によるヘアカットを行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時に本人及び、家族の希望を聞いており、家族協力のもと、受診対応も行っている。ほぼ全員の利用者が訪問診療を受けられている。	入居時に本人と家族にかかりつけ医についての希望を聞いている。現在は訪問診療を受けている入居者が多い。家族による通院時には事業所から情報を提供している。訪問看護ステーションと契約し、週2回の訪問と24時間支援体制がとられている。訪問歯科、訪問歯科衛生士が口腔ケアを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来て見ていただいている。夜間や休日でも緊急時は訪問していただける体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関には利用者の状態について、情報を提供している。また、入院の際は電話連絡等で家族から現状や今後について話しを聞いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際や重度化した際は家族に説明している。時には往診医から家族報告してもらうこともある。	「重度化した場合の対応に係る指針」を入居時に家族に説明している。食事が摂れなくなった時に医師から家族に説明している。終末期には家族は毎日でも面会することができ『看取りは事業所で』という家族が多い。看護師が職員に看取りの段階の説明をし、看取り後は振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをもとに職員が行動できるように対応している。事務所にAEDを設置している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年2回避難訓練を行っている。事務所には防災無線受信機を設置している。水害については避難場所の確保に努めている。	年2回避難訓練を行っている。事務所に市の防災無線受信機が設置されており緊急時には連絡が入る。水害時に備え、隣の建物の2階への垂直避難を想定している。年3回業者が設備点検に来ている。備蓄は食料などを3日分保管しておりローリングストックを実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人人格のや個性を職員が把握し、呼び方や言葉使いに注意し本人を尊重する対応をしている。	接遇、プライバシーの研修を行い理解を深めている。呼び名は、苗字か名前に「さん」を付けている。居室に入る時は、ノックをし確認してから入室している。言葉遣いや声がけに注意し、周りに配慮して小声で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、自己決定ができるように声掛けし、選択肢を活用した会話を実践している。入浴時の衣類を決めてもらって言う		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の7ペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネックレスや腕時計など利用者の好むものを自由に身に着けてもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の好みを生活歴や本人に確認をしながら本人の望む形で提供できるよう努めている。また、行事やレクなどで好きな物が食べられるように意見を反映できるよう工夫している。出来る方には食器拭きなど一緒に後片付けをしている。	メインのメニューに対応した食材が業者から届くようになっている。ごはん、みそ汁、おかず1品は職員が手作りし、メインのおかずと組み合わせて提供している。入居者の状態に合わせ、刻みやとろみ等に職員がアレンジして対応している。誕生日には本人の好きなメニューや手作りのケーキでお祝いしている。入居者は野菜の皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなど、できることを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決められた献立とカロリー計算により栄養バランスが取れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。一人一人の状態に合わせた口腔ケアを支援している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。失禁が多いからおむつにかえるのではなく、トイレ誘導回数を増やし対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう定期的に声がけや誘導をしている。夜間にはポータブルトイレやセンサー、大きめのパッドを使用するなど、睡眠を妨げないよう工夫している。便秘対策としては水分量などを訪問看護師に相談したり、医師の処方する薬を服用する人もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後トイレ誘導を行ったり、水分を摂っていただくようにしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めずに対応、本人の希望に合わせているが週2回以上は入浴できるように配慮している。	基本は週2回の入浴で湯はその都度換えている。入浴剤を使用し楽しんだり、湯加減等は本人の好みに合わせている。入りたくない人には、無理強いせず時間をおいて声かけの仕方を工夫するなど、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせ、自由に休息をとっていただいている。テレビをつけたまま休みたい方もおり希望に応じた対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用については理解しているが、副作用までは十分に理解できていない。服薬に関してはここに合わせた介助を行っている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった支援を行っている。洗濯物たたみや唄、塗り絵、季節の飾り等一緒に行ったり、天気の良い日は外気浴を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、買い物、町内会の行事の参加はしていない。家族にも協力してもらいながら希望があれば個別で対応している。	事業所が所有する福祉車両を使って車いすの人も一緒にドライブを楽しんでいる。家族との通院時にドライブを楽しむ入居者もいる。また、暖かい日には事業所の玄関前のベンチに座って花壇の花を眺めながらコーヒーを飲んだりして楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者トラブルになりかけたこともあり、家族には説明し管理を家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話やスマートフォンを持っている方もいる。自由に家族や友人に電話している。手紙のやり取りは受け取りがメインなので本人にお渡しをしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるため、掲示物は毎月＊一部の利用者に手伝ってもらいながら、作り変えている。空調や換気に気を付け居心地のよい空間作りを楽しんでいる。	小上がりもあり、入居者が好きな場所できつろげるようにしている。共用空間には職員と一緒に手作りの季節の飾り付けや、入居者の習字などの作品が飾られている。温・湿度管理、換気は職員が行っている。テーブルの配置は、入居者がゆっくり過ごせるよう動線に配慮しながら工夫している。トイレの表示を見当識に配慮しわかりやすくしたり、居室のドアには名前と作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性にも注意し、いつも一人一人が快適に過ごせるように席替えやテーブル配置に気を配っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、なじみの品々を身近に置くことにより、落ち着いた毎日を過ごしていただいている。	ベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが設置されている。入居者は自宅からタンスやテレビ等持ち込み、壁には写真や手作りの作品が飾られている。居室担当者は衣替え、シーツ交換などを手伝っている。温・湿度、換気は1日2回行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境を利用者の身体状況に合わせている。居室やトイレには迷わないように名前を掲示している。廊下やリビングに不要な物を行いようにしている		